

## 新譜2曲と合唱発表曲をレッスン

6月20日

- 6月20日（金）の定例レッスンは佃さんの体操に始まり、本並先生指揮、静さんピアノで、「雪の街」と「初心のうた」、休憩後、伊藤副指揮者の指揮で「街を返せ」、また本並先生に戻って合唱発表曲の「降りつむ」をレッスンしました。参加は全31名でした。
- ベストアルバムを選曲するためのアンケート用紙（50音順）が配されました。前回提出された方も再度提出してください（コンサートの形やゲストなど提案も裏に描いてください）。
- 7月20日、21日の昂交流・総会の出欠の確認がなされていますのでご協力ください（施設予約のため）。

## 孫曼さんご一家と交流

6月20日

- 6月20日（金）の定例レッスン後に興隆園で孫曼さんご一家と歓迎会食交流をしました。ご一家は6月22日に広島で開催される「アコーディオンでつなぐ日中友好の絆 孫曼親子 日中友好コンサート」に出演されるため来日され、ちょうど昂の定例レッスン日も行程に入っていたので、団員有志との会食、交流会をもつことになったものです。



- 交流は、元団員の石川さんの司会で、孫曼さんの挨拶、本並先生の歓迎挨拶に始まり、藤後名誉団長の乾杯の音頭のあと、孫曼さんの夫の呉さん（中国は夫婦別姓です）、長男さんにも日本語で挨拶してもらいました。

- ご長男の呉 嘴風（15歳）さんは上記のコンサートでの演目、「さくら変奏曲」、「サンサーンス 白鳥」、「ショパン 円舞曲」などの素晴らしいピアノ演奏をコンサートに先立ち披露してもらい、お返しに昂で、「林道人夫」を歌いました。

- 孫曼さんは、南京市外事弁公室に席を置き、ずっと日本との交流の責任者をされてきて、2001年の第一次日本紫金草合唱団198名の訪中公演・交流の責任者をされたのを皮切りに、爾来、日中友好のかなめとして、「不忘歴史、面向未来」の旗印のもと、わが男声合唱団昂の2009年の南京公演も含めてほぼ毎年のように行われている、第10次に亘る日本紫金草合唱団の訪中公演・交流を主導ご尽力頂いています。藤後名誉団長、本並先生をはじめとして、昂の団員とも強い絆の歴史があります。昂の第1回コンサート（2004年）では、アコーディオングスト出演と「地底のうた」アコーディオン伴奏をしてもらっています。

- 孫曼さん略歴；1972年南京生まれ、父親は音楽家。子供時代は南京の全寮制の子供の芸術団で過ごし、日本公演がきっかけで日本語に興味を持ち、中学校から独学で日本語を学ぶ。高校卒後日本に留学。名古屋大学文学部国文国語学科を1995年3月卒業。2005年南京大学でMPA（公共管理）修士号を獲得。1995年4月から今まで20年間南京市外事弁公室（国際交流部）で日本との交流を担当してきた。日本語はもちろん、米国留学時の英語も堪能。現在南京市外事弁公室アジア処長。

